

中流

都市郊外^{こうがい}から山^{へいたん}のふもとあたりまでの平坦な場所の川が、中流とよべれます。中流でも山に近い場所まで行くと、下流とはようすが大きく変わってきます。

まず、水は透明^{とうめい}できれいなため、泳いでいる魚がよくみえます。カワムツやオイカワなどが多いのが特徴ですが、魚の種類はあまり多くありません。所々に堰^{せき}があり、川の流れには変化がみられます。流れの速さによって、川底のようすも石の多い場所や砂ばかりの場所などさまざまです。砂の多い場所には、カマツカがよくみられます。魚のエサとして重要なカワゲラ、トビケラ、カゲロウなどの水生昆虫は、種類ごとに川底の好みが違うため、いろいろな状態の川底がみられる中流には、多くの種類の水生昆虫がすむことができます。

サナエトンボ類やコシボソヤンマ、カワトンボ、ハグロトンボなど川特有のトンボが多く、ゲンジボタルの数が最も多いのも中流の特徴です。天然記念物のオオサンショウウオのすみかでもあり、また鳴き声が美しいカジカガエルが多いのも中流から上流にかけてです。河原^{かわら}では、カワラナデシコやカワラハハコ、ネコヤナギなど特徴的な植物や、ヤマセミやセグロセキレイ、イカルチドリなどの鳥もみられます。河原^{かわら}の砂レキの多い場所ではイカルチドリが、川の土手ではヤマセミなどが巣作りをしますが、このような場所は少なくなっていました。



54. 中流